

●相談支援分科会（くるめ相談ネット）

1年間の取り組み（平成29年8月～平成30年7月）

1 設立趣旨

障害者相談支援は、本人のニーズに寄り添い、地域生活への意向や安定した生活に向け、様々な情報提供をはじめ、自己決定に必要な提案、助言、支援を行うという極めて重要な役割を担っています。

そこには、制度・サービスありきではなく、利用者のニーズや望む暮らしを実現するために、地域の社会資源を活用し支援計画を作成・実行するとともに、地域のネットワークや社会資源の改善・開発にむけたまちづくりに努めるといった役目も担っています。

しかしながら、個々の相談支援専門員の感性や力量、事業所の経営基盤等に頼るところが多く、財源・人員体制の脆弱さを背景に、結果として相談員のバーンアウトや、サービスは利用していてもサービス等利用計画に移すことができない多数の障害児・者の現状があります。

相談支援事業所は、地域で暮らす障害児・者の方々が、安心して暮らす社会の構築に向けて今後さらに地域課題の解決やネットワークの構築を目指していく必要があり、中立・公平な相談支援活動を実施するとともに、互いの知識・技術の交流及び研修を行うことにより資質の向上を図りたい。

また、事業所で抱えている困難事例の解決や地域課題の抽出を行いながら、当市の実情をふまえたネットワーク構築、社会資源の改善・開発にむけ活動を行っていく。

2 1年間の取り組み（平成29年8月～平成30年7月）

（1）相談分科会勉強会

平成25年より、相談支援事業所の相談支援専門員が集まって、月1回勉強会や情報交換を行い、平成29年8月からは、久留米市地域生活支援協議会のなかの相談分科会としての位置づけで活動している。

活動内容としては、相談支援専門員が知りたい社会資源や行政からのお知らせ、困難事例の事例検討の他に、昨年からは相談支援専門員の質の向上を図ることを目的に外部講師を招いての研修を企画した。

頻度としては、毎月1回 第3木曜日に定期的実施して、毎回40名前後の参加があった。

●平成 29 年 8 月～平成 30 年 7 月の取り組み

回数	月日	内 容	参加人数
第 54 回	H29. 8. 17	児童の福祉サービスについて 児童の課題と社会資源等について	42 名
第 55 回	H29. 9. 21	障害児の計画作成について	41 名
第 56 回	H29. 10. 19	子ども子育てサポートセンターについて 災害時における相談しえ専門員の動きについて	40 名
第 57 回	H29. 11. 16	司法手続きの流れと処罰されないケースについて	34 名
第 58 回	H29. 12. 8	情報交換会	41 名
第 59 回	H30. 1. 18	久留米市における子育て支援の現状と事例から見えてきた課題	40 名
第 60 回	H30. 2. 15	事例検討会	40 名
第 61 回	H30. 3. 15	基幹センターが感じている地域の課題 新サービスについての概要説明	38 名
第 62 回	H30. 4. 19	行政説明（報酬・新事業について） 「つながろうプロジェクト」報告	50 名
第 63 回	H30. 5. 17	平成 30 年度報酬説明	51 名
第 64 回	H30. 6. 21	集団指導	46 名
第 65 回	H30. 8. 16	講演・グループワーク「連携について」 講師：倉知延章氏（九州産業大学教授）	37 名

(2) ヘルプカード

相談支援専門員から災害時の不安についての声を受け、災害ワーキングを立ち上げ、ヘルプカード制作について、これまで5回の事務局会議と2回のワーキングを実施して試作した。

試作品においては当事者分科会やピア久留米の活動に提案して、改善を図り再検討・協力を頂いた。

●ヘルプカード作成の取り組み

①事務局会議

回数	日時	内 容
第1回	H30. 2. 19	ヘルプカード作成について基幹で検討 他市の情報収集
第2回	H30. 3. 15	地域福祉課へ指定避難所の備品等の情報収集
第3回	H30. 4. 11	第1回災害ワーキング打ち合わせ
第4回	H30. 6. 5	第2回災害ワーキング打ち合わせ

②災害ワーキング

回数	日時	内容	参加者
第1回	H30. 4. 24	ヘルプカード作成について意見交換	12名
第2回	H30. 6. 11	ヘルプカードの改善点報告、修正後の協議。 当事者からの意見の聞き取り等	8名

③バリアフリーカフェ参加

日時	内 容	参加者
H30. 7. 28	ヘルプカード作成についての主旨説明と意見交換	当事者：10名、 一般：1名 障害者福祉課：1名 基幹センター：4名

3 課題

- ・ ソーシャルワークとサービス等利用計画の質の担保
- ・ サービス等利用計画に載らないセルフプランの多さ
- ・ 医療や教育機関との連携の難しさ
- ・ 適正なサービス支給量
- ・ 定期的な事例検討会
- ・ 近年災害が多発するなか、その対応について相談員の不安が大きいことから対応策を検討していく必要がある。

4 事業計画

(1) 研修・意見交換会

毎月1回相談支援専門員が定期的集まって、情報共有や新たな情報を得て質の向上を図っている。

(2) ヘルプカード

相談支援専門員の業務を通して、災害時の対応をどのようにしていけばいいかが分からないという不安感が出ており、来年度は災害対応を1つのテーマに講義やワークをもっていきたいと考えている。

●久留米市内で活動する28の指定特定相談支援事業所

(2018年8月1日現在)

アップルハート久留米相談支援センター	相談支援ステーション千歳
日陽	ホリカワ相談支援室
さくら相談支援ステーションくるめ東	相談支援事業所白百合
相談支援センターみづま	相談支援事業所バンビーノ
相談支援センターカリブ	ラスカルサポート
相談支援事業所夢の紀	ウェルあらし相談支援センター
共に働くまちづくりワークショップマリア	ウェル城島相談支援センター
相談支援センターいちばく	サポートセンターK`S
相談支援グローリー	土本ソーシャルワーク事務所
相談支援センターレガート	グッドバイ相談支援事業所
相談支援センターあかり	のぞえの杜
特定相談支援事業所ほのぼの	相談支援事業所ピアくるめ
相談支援事業所オアシス	Freedom.
リカバリーセンターくるめ	ぶどうの木

※上記事業所に所属している1名～4名、計53名で構成。